

一期一会

三木東中学校 学校通信

2026年度 NO.3

5月29日（金）発行

おかげさまで

修学旅行、校外学習、わくわくオーケストラ…。各学年の大きな行事が終わりました。新しい体験や友だちの良さなど、多くのことに気づき、また一步成長したと思います。



その行事の中で、「〇〇の方たちのおかげで～」「おかげさまで～」という言葉をよく聞きました。この言葉から始まる話は、ほぼ「ありがとうございました。」という感謝の言葉で締めくくられます。準備をしてくれた人、活動を支えてくれた人、それは家族、先生、友だち、業者の方々、交通機関の方々…。どんな行事でも誰かの支えや助けがないと成り立つことはありません。本当にありがとうございました。

今、皆さんは体育大会の練習に励んでいる真っ最中です。体育大会を終えたときに、「神セブン、エンジェルフォーのリーダーシップのおかげで」、「団員一人一人のやる気のおかげで」素晴らしい体育大会になったと言えることを願っています。

「おかげさまで」でもう一つ。「おかげさま」は、普段の日常にあふれています。校舎を毎日きれいにしてくれる人、給食を配膳してくれる人、教科の準備を連絡してくれる人…。そう、皆さんがそれぞれの役割を果たすことで、誰かの「おかげさま」と言われる人になっています。反対に言えば、学校で生活できているのは三木東中学校の一人一人のおかげなのです。

さらに、「誰の役割でもないけれど、誰かのためにできる仕事」に気づく人がいるともっと快適な学校生活ができます。一番わかりやすいことは、「ゴミが落ちていたら拾う」こと。「自分が落としたんちゃうし。」と、いってほったらかしにすると、ゴミはそのまま、さらにゴミが増えていきます。反対に拾う人がいると、ゴミがなくなり、ゴミを落とさないようにという意識が生まれ、きれいな状態が保たれます。

大切なことは、気づく人になれるかどうかです。はがれていた掲示物が、もとに戻っている。体育大会の団の連絡ボードの間違いがいつのまにかなおっている。遊んでいたボールが、職員室前に片付けられている、などなど…。決まっていなくても、「誰か」のために動く人のおかげで、快適な日常があります。「それ、自分のすることちゃうし。」と、いつも誰かに助けられて、それに気づかない人は、どんどん人からの信頼をなくしていきます。

6月は体育大会、そして三木市総体があります。行事が成功したり、勝負に勝ったりした時によく聞く「普段の行いがええからな。」という言葉。これは、そういう普段から誰かのために動いている人のためにある言葉だと思います。自慢することなく、黙って誰かのためにできることをする。そういう人になって、体育大会も総体も頑張ってもらいたいと思います。

